

一つの街「国立」

国立第一中学校 2年 古関 暁典

突然ですが、あなたにとって「一つの街」とは何でしょうか。

僕はこの言葉に二つの意味があると思います。「みんなが一つ」というのと「日本に一つ」という意味です。しかし、このことを達成するには四つの壁があります。今からこの四つの壁を見ていきましょう。

まず、年齢の壁があります。今の国立は、小さな子供達とお年寄りの関わりが薄いようだと思います。この関係をつくるために、元気なお年寄りが幼稚園や保育園で一緒に遊んだり、世話をして、子供達とお年寄りの距離を縮めたら良いと思います。

次に、健常者と障害者の壁があります。国立市には、都の障害者センターもありますが、市民と障害のある人とが関わる場面が少ないのが現状です。ですので、障害者スポーツセンター等で障害者の方々が指導者となって、障害者スポーツを体験する機会を設けてみてはどうでしょうか。そうすることで、障害者との関わり合いも深めていくことができると思います。

三つ目に、学校間の壁があります。国立には、市立の小中学校が十一校、私立の学校も多く、高校・大学も存在します。しかし、学校間であまり連携できていないと思います。そこで、小学校で行う星の学習を国立高校の望遠鏡や、桐朋学園のプラネタリウムを使ってみたり、一橋大学の学生さんに勉強を教えてもらう等、文教都市ならではのことをしてみたら良いと思います。

四つ目に、地域間の壁があります。国立市は、整った街なみの北部と、農地が多い南部がありますが、この北部と南部のふれあいが少ないと感じます。そこで、北部の公民館や、北市民プラザで、南部で収穫した野菜を直売したり、北部の人が南部の田畑に行き、田植えや、収穫などの作業を体験することで関係を深められると思います。

これら四つのことは、国立が「みんなが一つ」になり街をつくって「日本に一つ」のすばらしい街になるキーワードになるとと思います。将来、この街だけにしかない個性を生かし、「一つの街」として市民がもっと誇れる国立になってほしいと思います。